

今回のシマフクロウの放鳥の経緯

1. 今回の放鳥の概要

(1) 目的

シマフクロウの生息地の拡大・充実を図るための野外つがいの形成

(2) 生息地の概要

十勝総合振興局管内の生息地。同管内での放鳥は初めて。

当該生息地は1996年頃から生息が確認されており、放鳥した時点において2009年（平成21年）生まれのオス個体が1羽生息していた。周辺には、巣箱2基が設置され、つがいが利用可能な状態となっていた。

(3) 放鳥個体

釧路湿原野生生物保護センター（以下「WLC」という。）にて飼育していたメス個体を放鳥した。2010年に釧路総合振興局管内において交通事故により保護された同年生まれの野生個体であり、WLCにて放鳥に向けたリハビリを行った。メス個体単独の放鳥は初めて。

(4) 放鳥の方法

平成26年3月に策定した「シマフクロウ放鳥手順」に沿って実施した。

放鳥個体に採餌環境及びオス個体を認識させるため、平成26年10月15日より放鳥場所にて順化飼育を行ったところ、同日より鳴き交わりを確認したため、翌16日再度の鳴き交わりを確認のうえ放鳥した。

2. 放鳥後の経過

放鳥後は、個体に装着したGPSやセンサーカメラ、鳴き声調査等により行動をモニタリングした。

放鳥後は頻繁に鳴き交わりを確認し、つがいで行動している様子が確認され、繁殖への期待が高まっていた。平成27年3月中旬には、巣箱に設置されたカメラにより2卵の産卵を確認していたところ、平成27年4月17日に2羽のヒナが誕生したことを確認した。

3. 写真



1. 放鳥したメス



2. 抱卵するメスと
2 卵



3. 巢内で確認した
2 羽のヒナ